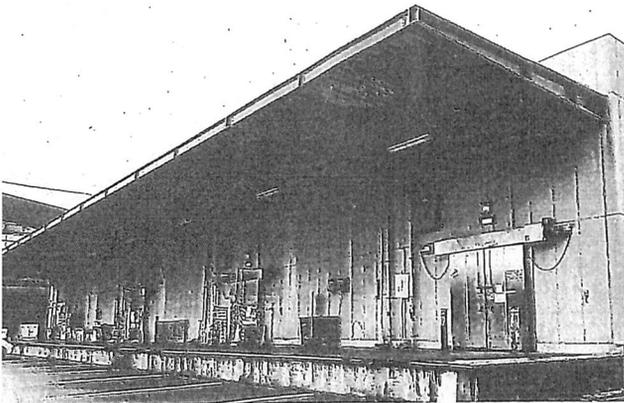


食材を一括受注・配送 仕入れ負担減



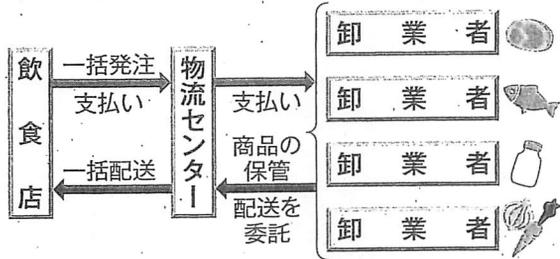
生鮮食品卸大手のいずみホールディングス (HD、札幌) は、首都圏に飲食店を出したい道内企業を支援するビジネスを本格化させる。8月に東京・大田区に開設した物流センターを拠点に、店が仕入れたい多種多様な食材を一括で受注し、まとめて届けられるシステムを整え、仕入れにかかる店の手間や負担を軽くする。3年後にはこの事業で年間5億円の売り上げを目指す考えだ。

いずみHDが新物流システム

道内企業の東京出店支援

いずみホールディングスが物流センターを開設した東京・大田区の倉庫 (同社提供)

いずみHDが東京で始めた新しい物流システム



飲食店が食材を仕入れる際、取扱品目が異なる複数の取引業者に対し、その都度①注文の連絡②届いた食材の確認③代金の支払いが必要となる。特に東京には食材卸の業者が多く、人手不足が続く飲食業界では仕入れに関わる業務が店の負担となっている。道内企業が首都圏に新たに店を出す場合、卸業者の選定に困るほか、実績がないため取引を敬遠されることも多いという。東京の業

19年度12社目指す

者とのパイプを持ついずみHDは、取引先の紹介などを通して道内企業を後押しし、自社の物流網の拡大にもつなげることにした。いずみHDは東京の物流会社と提携し、倉庫の一部を借りて物流センターを運営。複数の食材卸が取り扱う商品をセンターで保管し、道内企業からの発注を受け、提携先の物流会社が商品をまとめて店に配送する。肉や魚、野菜といった

や冷凍食品、乾物など幅広い品目の注文に応じる。これまで飲食店1軒ずつに食材を届けてきた卸業者は、いずみHDに利用料を納めるとこのシステムに加われる。食材の配送費用だけでなく、商品の在庫管理や仕分け、代金受け取りなどにかかる手間も省ける。配送地域は東京23区と埼玉県の一部で、現在は都内の居酒屋チェーン2社が利用している。今後は道内企業に参加を呼び掛け、2019年度に12社の利用を目指す。いずみHDの泉卓真社長は「こうしたシステムは業界でも珍しい。道内の飲食店が活躍できる環境をつくりたい」と話している。